

平成22年度 検査概要

と畜検査頭数および廃棄処分頭数 () 内は平成21年度の数

	と畜検査頭数	廃棄処分頭数	
牛 	8281 (8045)	と殺禁止	0 / (0)
		全部廃棄	8 / (9)
		一部廃棄	3918 / (3671)
とく (仔牛)	1 (1)	と殺禁止	0 / (0)
		全部廃棄	0 / (0)
		一部廃棄	1 / (1)
馬 	0 (0)		
豚 	18175 (17466)	と殺禁止	0 / (0)
		全部廃棄	56 / (93)
		一部廃棄	12912 / (12799)
めん羊 	0 (0)		
山羊 	0 (0)		
合計	26457 (25512)	と殺禁止	0 / (0)
		全部廃棄	64 / (102)
		一部廃棄	16831 / (16471)

⇒ **と殺禁止**・**全部廃棄**・**一部廃棄**とは？

食肉検査部門では、と畜解体を行う前に、搬入された牛・豚全頭に対して生体検査を行っています。この時点で病気の疑いや食用に適さないと判断された牛・豚は、**と殺禁止**となります。

さらに、と畜解体された牛・豚全頭の内臓や枝肉の検査を行って、全身性の病気と診断された場合や食用に適さないと判断された場合は、内臓・枝肉全てが**全部廃棄**となります。また内臓・枝肉の一部のみに異常が認められた場合は、その部位のみが**一部廃棄**となります。

全部廃棄状況 () 内は平成21年度の数

豚の全部廃棄：計 56 頭 (平成21年度：計93頭)					
廃棄理由	豚丹毒※	敗血症	全身性筋肉炎	全身性腫瘍 (悪性黒色腫※)	膿毒症
廃棄件数	51 (82)	2 (8)	2 (1)	1 (1)	0 (1)

牛の全部廃棄：計 8 頭 (平成21年度：計9頭)						
廃棄理由	牛白血病	尿毒症※	敗血症	全身性腫瘍	黄疸	水腫
廃棄件数	3 (1)	2 (3)	2 (2)	1 (0)	0 (1)	0 (2)

こちらのページに詳しい説明があります！

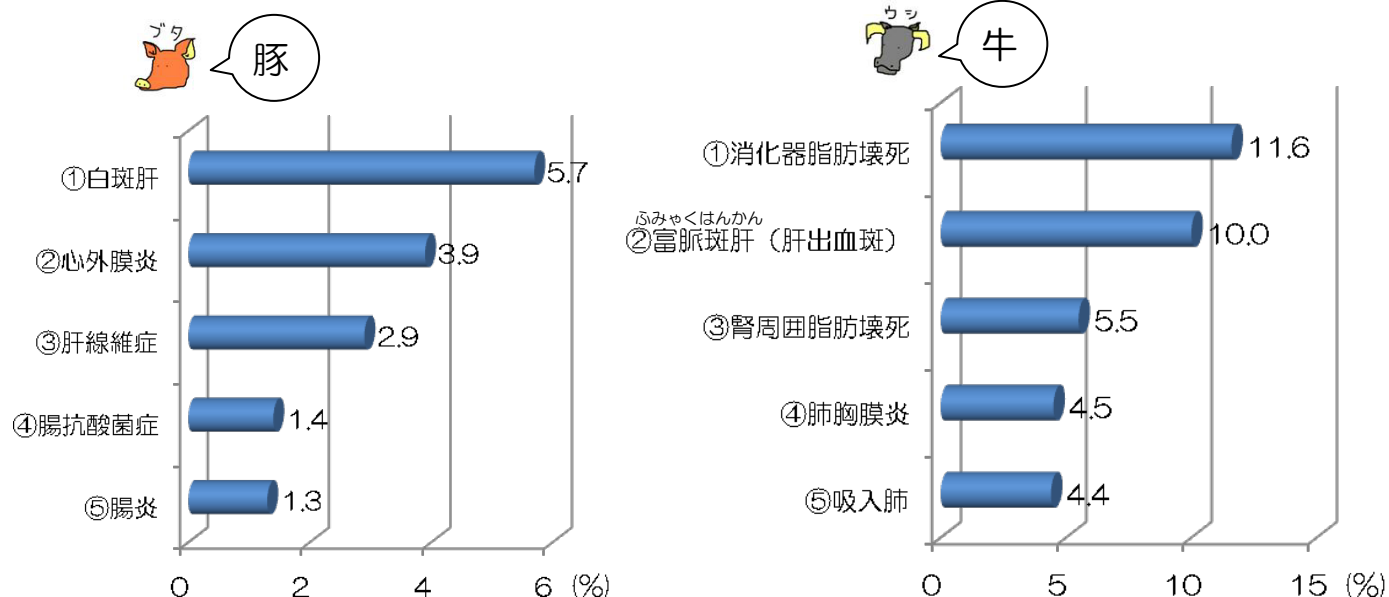
※豚丹毒：<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000099981.html>

※悪性黒色腫：<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000083699.html>

※尿毒症：<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000097074.html>



主な内臓疾病発生率 (全と畜頭数からの割合)



豚では白斑肝 (<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000079594.html>) の発生が最も多くみられました。

牛では消化器や腎臓周囲の脂肪壊死や、富脈斑肝 (肝出血斑) の発生が多くみられました。

富脈斑肝 (肝出血斑) とは：肝臓の表面あるいは断面に、円形～不整形の暗赤色斑が認められるもの

